

# 邑南町小中学校の在り方検討委員会報告

## 1. 邑南町小中学校の在り方検討委員会の設置

人口減少や社会の変化を踏まえ、子どもたちに邑南町ならではの最良の学びを提供することが求められています。そのような中で、子どもたちが地域に誇りを持ち、将来の邑南町を担う力を育む教育環境を整えること、多様な学びを支え、すべての子どもたちの学習機会を保障することが重要と考えています。邑南町らしい理想的な教育の追求、並びに持続可能な教育環境を確立するため、小中学校の在り方について多角的に議論を行い、邑南町の教育が将来にわたって発展し続けるための方向性を示すことを目的として、昨年6月26日邑南町教育委員会から諮問を受け、「邑南町小中学校の在り方検討委員会（以下、「委員会」という。）」設置されました。

|       |        |       |     |
|-------|--------|-------|-----|
| 委員の構成 | 大学教授   | 松本 一郎 |     |
|       | 学識経験者  | 山下 政俊 |     |
|       | 学識経験者  | 山中 慎嗣 |     |
|       | 保護者代表  | 武田 正文 |     |
|       | 多様性の視点 | 土田 美加 | 計5名 |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 第1回委員会（令和7年6月26日） | 委員会設置の経緯・小中学校の現状説明<br>委員長及び副委員長選任<br>意見交換   |
| 第2回委員会（令和7年7月29日） | 第1回会議の振り返り<br>学校と地域の関わりについて<br>アンケートの実施について |
| 第3回委員会（令和7年10月3日） | 第2回会議の振り返り<br>保護者・地域住民対象のアンケート結果について        |
| 第4回委員会（令和7年12月5日） | 第3回会議の振り返り<br>当委員会における今後の方針と委員長提案について       |
| 第5回委員会（令和8年2月27日） | 第4回会議の振り返り<br>報告書（答申）案の確認<br>意見交換           |
| 第6回委員会（令和8年3月3日）  | 答申  |

## 2. 邑南町立小中学校の規模及び児童生徒数

- ・児童生徒数の減少が進んでおり、H17 898人、H27 744人、R7 644人と、20年間で254人減少しています。また、「令和6年島根の人口移動と推計人口」によると令和6年の邑南町の出生数は36人でした。学級、学校そのものが存在できなくなる児童生徒数が見込まれます。

| 学校名    | 学級数 | 児童生徒数（人） |
|--------|-----|----------|
| 口羽小学校  | 3   | 21       |
| 阿須那小学校 | 3   | 15       |
| 高原小学校  | 5   | 36       |
| 瑞穂小学校  | 8   | 119      |
| 市木小学校  | 2   | 9        |
| 矢上小学校  | 8   | 134      |
| 日貫小学校  | 4   | 7        |
| 石見東小学校 | 9   | 69       |
| 羽須美中学校 | 4   | 25       |
| 瑞穂中学校  | 6   | 84       |
| 石見中学校  | 6   | 125      |
| 計      |     | 644      |

（令和7年5月1日現在）

## 3. 邑南町立小中学校の現状・課題

- ・現状の少人数の学校（複式学級）では、日常での授業や学級・学校活動を行う際、同級生や同年代の子ども達との多様な考え（多様な視点との出会い）に接しにくいことや、地域の人との交流が盛んではあるものの、児童生徒数が少ないと、人間関係の固定化といった社会性・対人関係に関する課題があります。
- ・「統合」「現状維持」のどちらにおいても、現状の邑南町の教育の良さ（地域との繋がり、一人一人に目が行き届く）や魅力は今後においても損なうことのないよう、教育内容の方法は模索・実現すべきです。通信環境やICTの活用などは方法の一つして役立ちます。
- ・文部科学省の推奨する「対話的な学び」、「集団の中でのコミュニケーション力の育成」について、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくことが重要であり、一定規模の児童生徒数が必要とされています。

- ・ 邑南町の小学校には、現状として学年に児童が1人もいない学校や、同級生に同姓が複数いない学校があります。

#### 4. アンケート

##### ●保護者向けアンケート

実施期間：令和7年9月8日～9月20日

実施方法：すぐーる（邑南町教育委員会学校連絡システム）にて発信

回答方法：チラシ掲載のQRコード、または回答用URLからWeb回答

回答件数：132件

##### ●地域住民向けアンケート

実施期間：令和7年9月10日～9月30日

実施方法：広報おおなん9月号、邑南町公式LINEなどで周知

回答方法：①Web回答 QRコード、回答用URLから回答

②紙による回答 公民館配置のアンケート用紙に記入して回答

回答件数：109件

- ・ 全ての地域から件数は多くはないものの、保護者に対して行ったアンケート、地域住民に対して行ったアンケートの集計によると、邑南町での「教育内容」について、現状の教育内容には多くの人が満足していることが再認識されました。
- ・ 「学校再編の話し合いを始めること」について聞いた設問では、保護者、地域住民に行ったアンケートともに「必要だと思う」と「やむを得ないと思う」との回答が約9割となっており、再編の話し合いが必要だという意見が多いということが明らかとなりました。
- ・ 一方で、地域の学校を存続させたいという切実な願いや、通学距離が伸びることに對する不安など、多様な「思い」もありました。
- ・ 現在の学校の児童・生徒数の規模についての設問では、保護者の46%、地域住民の72%の人が「小さい」と感じていることがわかりました。

#### 5. 委員会での議論、意見

##### ①答申に向けて

委員がそれぞれの立場・経験から、小中学校の学びの在り方、小中学校の再編について、子どもたちの「学び・成長」を一番に考え議論しました。

邑南町の教育方針の基本理念である「次世代を担う邑南の人づくりのために」～『世界へも羽ばたける力』の育成をめざして～、邑南町教育の目標～ふるさとを学び、人と文化を育む心豊かなまちをめざして～『将来の担い手を地域総がかりで育てる』にあるように、学びの方向性は、間違っていないと確信しました。子どもたちがふるさとを愛し、将来の邑南町を担う人材として成長することを期待します。

小中学校の再編について、小中学校の現状や課題から将来的にも一定規模の児童生徒数が必要であることから、委員会としては、小中学校の「統合」が必要であると提案します。統合により、児童生徒数が増えることで、より「対話的な学び」、「集団の中でのコミュニケーション力の育成」が図られるようにし、集団活動を行う環境を整え、課題を解決することが必要です。

このことについては、委員の中でもさまざまな意見がありますが、統合したとしても地域との繋がりが薄れることなく、公民館、学校運営協議会と連携した教育に取り組んでください。

また、学校の在り方は、その時代に合うように常に議論し、見直していくことが必要です。目指す子どもたちの姿に近づいているか評価し、見直す体制も整える必要があります。

統廃合の議論は、批判やネガティブな要素に傾きがちですが、「子どもの教育の質の向上」、「地域の発展」という前向きな目的を常に中心に捉えるべきです。未来への希望を育む建設的かつポジティブな議論を今後お願いします。

最後に、来年度以降、統廃合の議論を進めていく上では、さらに多くの意見を参照する必要があります。については、より開かれた場での丁寧な対話が必要だと考えます。

次の②以降は、議論の中で出た学びの在り方に対する意見です。

## ② 邑南町の魅力

- ・ 家族の繋がり、親子が繋がって仲良く暮らしている姿が、邑南町らしさではないでしょうか。また、社会教育が充実しており、地域の方との繋がりが強いのも邑南町の特徴であり、魅力です。ふるさと教育に積極的に取り組んだ成果として、地域に対する愛着や誇りを持つ子どもたちが増えてきたといえます。各世代が幸せを感じながら過ごせる町、帰りたくなる町になるように、教育の在り方は町づくりと関与しています。
- ・ 学校に対する地域の支援が多く、子どもたち自身が学びにしっかりと取り組んでいます。学校を見守る地域の良さは、これからも持ち続けていただきたいものです。
- ・ これからも町づくりの中で学校がどうあるべきか教育の視点からも考えていく必要があります。また、地域の再生、活性化に繋がるような授業づくりの在り方を考える必要があります。

## ③ 地域（公民館）の活用・連携、ふるさと教育の推進

- ・ これまでの教育の中で地域との繋がりが、邑南町の教育の魅力の一つですが、公民館の活用も学校教育の一部として、それぞれの地域の実情に応じて進める必要があります。

- ・ 邑南町の子どもは、日々の生活の中に公民館との関わりがあります。ふるさと教育を中心に、学校の授業には限りがあるため学校と公民館が連携し、取組みが学校教育から社会教育に移っていき、学びの場が地域（公民館）へ継続・発展するしくみの構築が必要です。「地域学校」<sup>1</sup>など継続・発展して行われることを期待します。
- ・ ふるさと教育の活動は、地域のことを学び、知ることはもちろんですが、普段関わることのない様々な人との関わりや出会い、「ひと・もの・こと」との総合的な触れ合いを通し、自らが人やものに関わる力を高めることが大切です。人との出会いの場をたくさんコーディネートできるような教育を目指す必要があります、大人と触れ合う機会があるこれまでの教育の在り方は今後も続けていくことが大切です。
- ・ 邑南町は、これら学びが実現できる地域であり、その特色を生かしていくことが重要です。地域の人と出会い、人と繋がることで、地域の願い、期待に子どもが触れることによって、ふるさとへの愛着が湧き、それを育てることで将来を担っていく人材を育てることにつながります。
- ・ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）など、地域の人が教育に積極的に参画できるよう働きかけ、地域の力を借りながら学校・保護者・地域が連携するしくみを強化することが必要です。
- ・ 学校の再編によって、学校が遠くなったことをきっかけに、地域の人たちが学校から離れてしまわないように遠くならうとも、それぞれの地区を巡るふるさと教育を推進すべきです。
- ・ 子どもが生き生きしているためには、大人が生き生きしていることが大事です。大人のふるさと教育にも取り組んでいく必要があります。
- ・ 地域と子どもの対話交流の場（発表の場）がもっとあるといいと思います。地域の人に勉強についてだけでなく、将来の不安や考えていることなど、安心して聞いてもらえる環境づくりが必要だと思います。

#### ④多様な学びを可能にする体制づくり

- ・ 誰一人取り残さない教育が必要です。不登校、特別な支援が必要な児童・生徒や、授業についていけない子にもう少し丁寧に個々の実態を把握して学習を進める必要があります。不登校や支援が必要な子どもに特化した教育も誰一人取り残さない取組のひとつになります。
- ・ 邑南町の学校は、人数が少ないからこそ多様な子どもたちに対応する教育を行うことができます。小規模の学校があることで救われている子どもがいることや、学校に行くのが苦手な子は教育支援センターやフリースクール、公民館、通信の利用など、学びの選択肢を増やし、体制を整えることが必要です。

<sup>1</sup>地域学校:子どもたちに「ふるさとの『未来』へ羽ばたく力」を育てることを目的として公民館単位を1地域として、地域住民が運営する学校のこと。地域の願いや実態、特色を生かしたものを内容し、学校のふるさと学習の内容との連携を図り活動を計画する。

- ・一斉指導では理解ができにくかったり、参加できにくかったりする場合の指導や通級の利用について、体制をより充実したものにする必要があります。
- ・少人数で自分にあった学びを希望する子どももいます。個々の実態に応じて丁寧にに関わり、把握した上で学習が進められるといいと思います。
- ・これからの「学び」にICTは欠かせません。デジタル学習基盤を整備して学びの機会を設けることも必要です。
- ・保小の連携により、入学前からの実態把握、支援の必要性について、引継ぎがスムーズにできる体制が必要となります。
- ・小中学校、高校、養護学校、保育所の連携が求められます。

#### ⑤少人数の学校（複式学級）の魅力はそのままに

- ・少人数の学校だからといって、対外的な学びの機会が少ないということは一概には言えません。同級生がいなくても、上級生・下級生の上下関係の中での縦割りの集団学習、地域の協力が得られやすく地域の方との対話など、地域が一体となった活動が行われています。このような活動は継続・発展していかなければなりません。
- ・一人一人に目が行き届きやすく、少人数の枠だからこそできる丁寧な邑南町の教育を続けていく必要があります。
- ・現状の邑南町の教育の良さ（地域との繋がりや、個別指導的な教育内容のメリット）や魅力は今後においても損なうことのないよう続けていくことが必要です。

#### ⑥再編の話し合いを進めるにあたって

- ・再編にあたっては、異学年間の交流や中学校への進学の際の「中一ギャップ」などを考慮すると小中一貫教育である「義務教育学校」も視野に入れると良いと考えます。
- ・学校教育だけでなく、部活動や地域の文化的な活動及びスポーツといった放課後の体験活動まで含めた、子どもの生活全般を包括的に考察する必要があります。
- ・再編した際の通学時間の問題は、課題として残りますが、有効的な活用（例えば、バスの中（通学時間中）でのテレビでの学習教材動画の視聴・学習）なども有効です。
- ・学校を新設するなら、公民館・図書館を併設するなど、地域コミュニティの拠点になる施設にすると、人との関わりが容易にできると考えられるため、参考にしてください。
- ・統合により、中央に拠点校を設置し、各地域の公民館を「学習のサテライト」として位置付け、ICTを活用して分校的な機能を維持するような、本町独自の新しい学習スタイルの検討をしてください。

## ⑦子どもを取り巻く環境について

- ・現代の子どもたちは、学校以外でも習い事や地域の行事など多忙な状況です。子どもを取り巻く環境も複雑化しています。そのような中、子ども一人一人が伸び伸びと幸せに成長して欲しいと願います。
- ・児童生徒の成長には、彼ら一人一人に固有な夢・希望・目標・意欲、踏み出すスイッチを具備させ、見守り、促し、発展させる家庭・友人・地域・学校・教師・国などの在り方（その存在と役割）がいつの時代も大切です。自分の夢や希望を育てることが学力や人格を育てていくきっかけになります。希望を持てる地域にして、支えていく必要があります。